

森林資源・森林吸収量算定基礎調査事業（継続）

【令和7年度予算概算決定額 521,556（532,600）千円】

<対策のポイント>

持続可能な森林経営に関する**森林の現況を継続的に把握・分析し、森林の計画的な整備・保全を推進**します。また、国連気候変動枠組条約及びパリ協定締約国に課せられている報告義務を果たすため、**森林吸収量の報告に必要なデータを収集・分析**するとともに、**森林吸収量について算定精度の向上や効率化等**を行います。

<事業目標>

- 持続可能な森林経営を評価するための国際的な取組への利用（モントリオール・プロセス国別報告書、FAO世界森林資源評価等への活用・反映）
- 国連気候変動枠組条約及びパリ協定に基づく森林吸収量の適切な報告（条約事務局報告、吸収量算定の精度の向上・効率化、審査対応等への活用・反映）

<事業の全体像>

- モントリオール・プロセスや生物多様性条約など我が国の国際的な責務への対応や情勢の変化に応じた政策の企画・立案を行うために、**森林の状態と変化の動向を全国統一の手法で計画的に把握**します。また、**国際的な持続可能な森林経営の基準・指標に対応するための森林情報の分析等**を実施します。
- 気候変動枠組条約及びパリ協定締結国に課せられている国際機関への報告義務を果たすため、**森林吸収量の算定・報告のためのデータの収集・分析を行うとともに、2050年カーボンニュートラルに向けた森林吸収量の算定精度の向上や効率化等の取組**を実施します。

- 全国の森林について、定点観測網を設定し、植生等の調査を実施します。
- 調査結果については、データの統計的な分析・処理により、森林の多様性の保全に向けた森林施策の検討に加え、モントリオール・プロセス国別報告書やFAO世界森林資源評価への報告にも活用します。



国連気候変動枠組条約及びパリ協定締約国として、毎年度条約事務局に森林吸収量の報告を行い、国際審査において妥当性を認められる必要があります。

- 森林吸収量を算定・報告するため、森林吸収源等及び伐採木材製品に関するデータの収集・分析を実施します。
- 2050年カーボンニュートラルに向けた森林吸収量の算定精度の向上や効率化等の取組を実施します。

森林吸収量算定のための基礎データの
収集・分析

技術的課題の分析・検討等

算定・報告

審査対応

条約事務局

持続可能な森林経営の推進・地球環境への貢献

森林資源・森林吸収量算定基礎調査事業のうち 森林生態系多様性基礎調査事業（継続）

【令和7年度予算概算決定額 293,423（309,551）千円】

<対策のポイント>

持続可能な森林経営に関する**森林の現況**を継続的に把握・分析し、**森林の計画的な整備・保全**を推進します。

<事業目標>

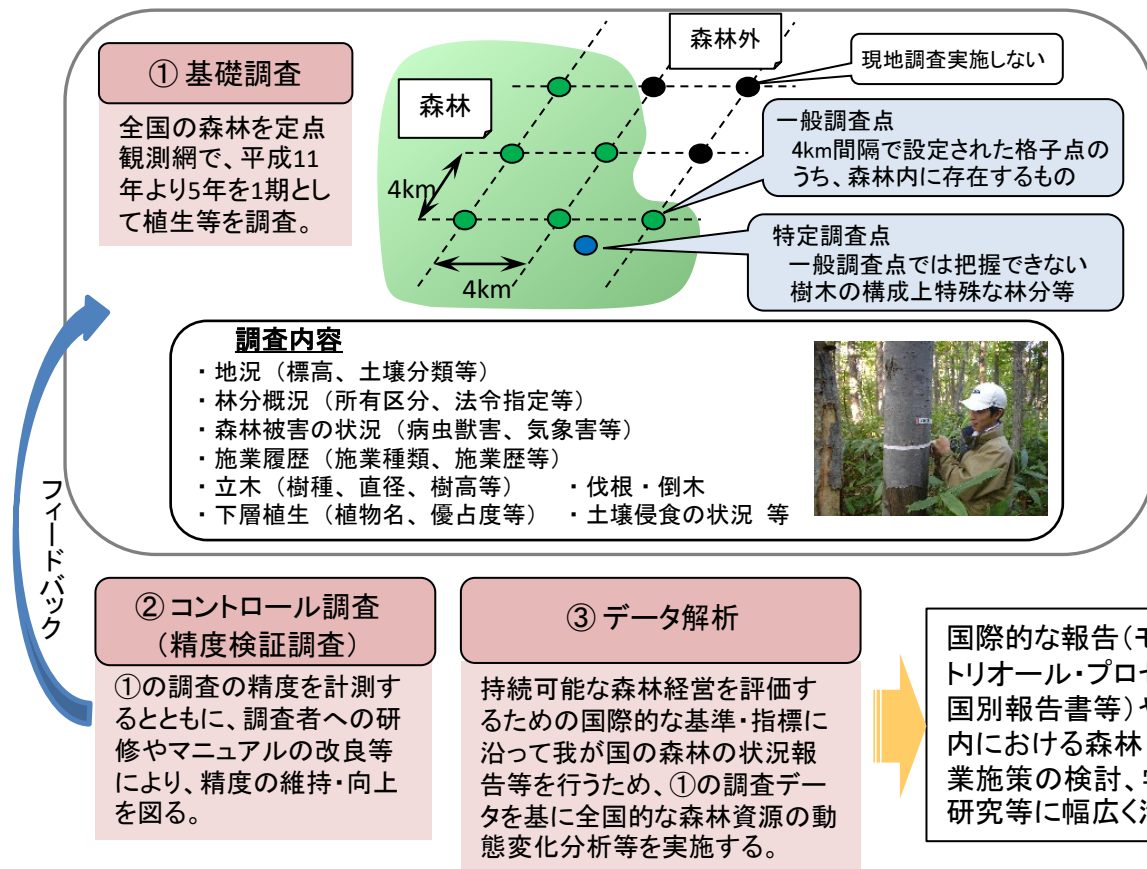
持続可能な森林経営を評価するための国際的な取組への利用（モントリオール・プロセス国別報告書、FAO世界森林資源評価等への活用・反映）

<事業の内容>

○ 森林生態系多様性基礎調査事業

- ① 我が国の全森林から抽出した定点観測網において地況・林況調査、植生調査等を実施し、**森林の状態と変化の動向を全国統一の手法で計画的に把握**します。
- ② 調査精度の維持・向上を図るため、コントロール調査等を実施します。
- ③ 持続可能な森林経営を評価するための国際的な指標に沿って我が国の森林の状況報告等を行うため、全国的な**森林資源の動態変化分析等**を実施します。

<事業イメージ>



<事業の流れ>



【お問い合わせ先】 林野庁計画課（03-6744-2339）

森林資源・森林吸収量算定基礎調査事業のうち 森林吸収源インベントリ情報整備事業（継続）

【令和7年度予算概算決定額 228,133（223,049）千円】

<対策のポイント>

国連気候変動枠組条約及びパリ協定締約国が提出するNDC（自国が決定する貢献）の削減目標達成に向けた条約事務局への報告を行うため、**森林吸収量の報告に必要なデータを収集・分析するとともに、次期吸収量目標の検討や2050年カーボンニュートラルに向けた森林吸収量の算定精度の向上や効率化等**に取り組みます。

<事業目標>

国連気候変動枠組条約及びパリ協定に基づく森林吸収量の適切な報告
（条約事務局報告、吸収量算定の精度の向上・効率化、審査対応等への活用・反映）

<事業の内容>

1. 森林吸収量算定のための基礎データの収集・分析

森林吸収量の算定・報告に必要な基礎データの収集・分析を実施します。

- 衛星画像等による土地利用変化の把握
- 「森林経営」対象森林の率の把握
- 土壌等の炭素蓄積変化量の把握
- 伐採木材製品（HWP）における炭素蓄積変化量の把握

2. 技術的課題の分析・検討等

森林吸収量の算定精度向上にかかる取組や2050年カーボンニュートラルに貢献するための検討等を実施します。

- 算定手法の技術的課題の分析・検証・改良
- 森林吸収量の将来予測
- 国際審査等での指摘事項への対応策の検討

等

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 森林吸収量算定のための基礎データの収集・分析

○衛星画像等による土地利用変化の把握

衛星画像等の比較により1990年以降の**新規植林・再植林・森林減少(ARD)**を把握



○「森林経営」対象森林の率の把握

1990年以降の**森林経営状況(FM)**のデータ収集・分析

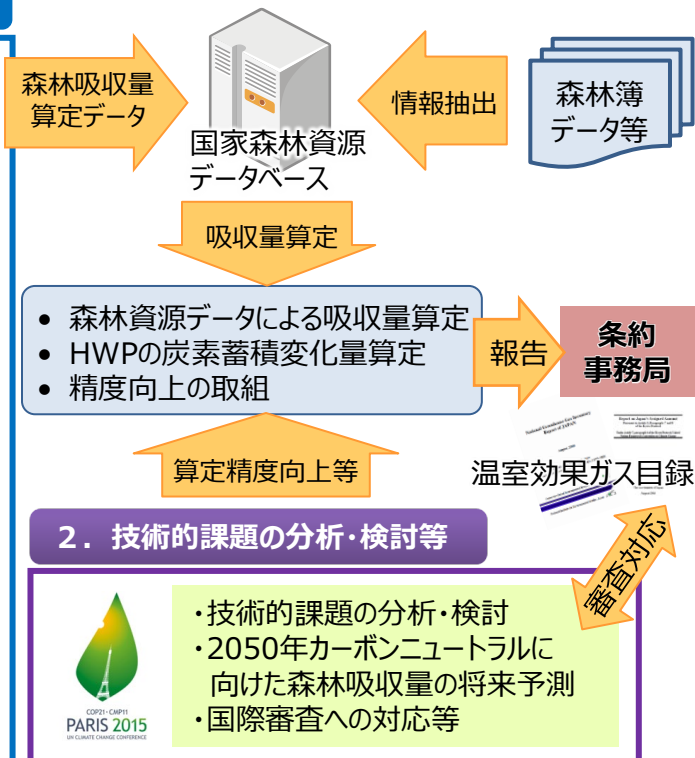


○土壌等の炭素蓄積変化量の把握

枯死木・リター・土壌の炭素蓄積のデータ収集・分析

○伐採木材製品(HWP)における炭素蓄積変化量の把握

建築物等における炭素蓄積変化量算定のための



【お問い合わせ先】 HWP以外 林野庁森林利用課（03-3502-8240）
HWPのみ 林野庁木材産業課（03-6744-2295）